

公表

事業所における自己評価結果（保育所等訪問支援）

事業所名		留萌市子ども発達支援センター		公表日		令和8年2月20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境 制・運 営・体	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	9		<ul style="list-style-type: none"> 今後も様々な教材を増やせるとよい 持ち運びできる教材等を活用している 持ち運び可能な教材は増やしていく必要性を感じる。貸出用の教材・補助具等も増やしていきたい。 	また訪問先によっては教材等の貸し出しにも対応してもらっている。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		<ul style="list-style-type: none"> 一度に行う指導人数や時間の点では制限も感じるため、今後の課題としたい。 訪問先の都合もあり、スケジュール管理の難しさは感じている。 	訪問先との日程調整の仕方の工夫など、アプリを活用できればと思う。	
業務 改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	1		改善する点など話し合う場があればと感じる。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> 指導、意向把握の機会の頻度がそれぞれ異なるため、全員に対し十分に行えているかは課題であると感じる。 モニタリング、懇談にて定期的に評価し、保護者と一緒に振り返りしたり意向確認している。 		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いや支援計画、記録等で確認し合っているが、時間や内容がその日の園や学校での活動・授業内容、児の様子に大きく反映されてしまい、臨機応変さが常に求められ職員の負担は大きい。 	保育所等訪問支援について、もう少し話し合う場が必要。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1	訪問支援事業のみでの外部評価は行われていないが、訪問先から評価をいただき、必要に応じて業務改善を行っている。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9				
適切 な支 援の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	9		保護者との懇談は増えている。また医師や療法士からの助言を受けたり、担任の先生からの聞き取りにも定期的に行いニーズに沿った支援計画になるようにしている。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> 原案はよりその子の支援に関わっている職員が作成し、またお子さんによっては理学・作業・言語の専門職も支援に関わりながら共通理解を図っている。 訪問している（保護者対応含め）職員が作成に携わっている。 		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	9		訪問支援時に最近の様子や担任に意向も確認し、必要に応じて支援内容に組み入れている。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 対象児に関わる職員での共有は行っている。 システム化により支援計画を共有し、記録も含めて訪問前後に確認できるようになっている。また訪問前に職員間で共通理解を図っている。 		
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		標準化されたツールは別機関で実施したものを共有することが多い。		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	その子の発達や集団での様子に合わせて支援内容を設定している。		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		システム化により支援計画を共有し、記録も含めて訪問前後に確認できるようになっている。また訪問前に職員間で共通理解を図っている。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	2	<ul style="list-style-type: none"> 必ずではないが、現在の状況等の共有は行っている。 対象児の状況に合わせて、事前の情報共有を職員だけでなく、担任とも行っている。 		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> できる限りその日のうちに振り返りを行うようにしているが、業務日程等により当日の話し合いが難しく、後日行う場合もある。 訪問支援後は、会議の設定までは行っていないが、情報共有する時間は設けている。 専門職員が交代で、訪問する子もあり、その際は必ず支援内容と状況について共有し、次の訪問支援に役立てている。 		
17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	9		原則として、訪問先の支援方法に配慮し、支援を行っている。			

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問後の記録は必須であり、その記録をシステム上で全職員が共有できるようになっている。 ・職員全員が記録を閲覧できるため、確認後は疑問に思ったことや解決策を話し合っている。 	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にモニタリングでき、訪問先との情報共有・ケース連絡会議の頻度が増え、支援計画や支援内容にも反映されている。 ・モニタリング毎に見直しを行い、訪問頻度を減らすか、増やすかを検討を行っている。 	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		関係機関との会議では、自発管、担当、必要に応じて専門職等、できるだけ複数名・多職種で会議に参加している。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		お子さんの状況に合わせて必要に応じて関係機関との情報共有会議等を開催している。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		移行時にはケース連絡会議、書面での情報提供を行っている。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・医療受診に同行し、関係機関で情報共有を図っている。 ・医療受診同行に積極的に参加し、医師だけでなく、理学や作業、言語療法の場面を見学させていただき、助言頂いている。 	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	8	1	相談支援のみでの参加となっている。	
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9		保育所等訪問指導のみの利用者は保護者との面談の回数も少なくなっている現状である。	
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	懇談の際に行っている。	
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時だけでなく、はじまりの会（説明会）、定期的な懇談時に説明している。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	9		年1回の文書、定期的な会議の場での説明を行っている。訪問時のカンファレンスが増えたことで、目的や必要性への理解が以前より深まっている。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問頻度が少ないお子さんまた小学生以上のお子さんについては、意向も変わらないことも多く、支援内容・目標が継続になることもあり課題となっている。 ・こども本人から訪問頻度を減らしてほしい意向があるときもあるが、その際は訪問先、保護者と話し合っている。 	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	9			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問後の振り返りも含め、頻度よく懇談はできている。 ・その都度、電話や家庭訪問を実施し、問題解決に務めている。 	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りの準備・開催等がお父さん同士の交流につながっている。指導時間が同じ保護者同士で交流を持てるように支援しているがいろんな保護者同士が交流を持てる機会は少ないかもしれない。 ・おやじの会で夏祭りを実施し、保護者同士での交流の機会を設けている。 ・現状は年度当初のはじまりの会（説明会）、夏祭りのみとなっている。夏祭り後の懇親会も実施した。きょうだい児の児童発達支援・放課後集団への体験・見学にも対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい同士で交流する機会はあまり設けられていない。ご家族のニーズを確認し、希望に応じて交流の機会等を設けていけると良いと思う。 ・日頃会う機会がないので、研修や親睦会等を開催していきたい。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも相談に乗れる環境を整えている。 ・相談に迅速に対応している。 	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	1	保育所等訪問に特化した情報提供はしていないが、どのような事業かを知ってもらう工夫は必要であるように思う。	利用者に限らず、誰もが詳しく事業について知ることができる情報の発信方法について検討する。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		わかりやすいことばで説明したり、支援計画の書き方への工夫している。指導の様子を写真や動画で示したりの工夫も行っている。		
訪	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	9		放課後の時間を活用しながら、訪問先の先生とお話できる時間も増やしている。	

問 先 施 設 へ の 説 明 等	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	9		文書でのやりとりに加え、今年度はカンファレンスの頻度を増やした。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	9		訪問先で先生と保護者も交えての情報共有会議も実施したケースも増えてきている。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	9		定期訪問する訪問先が増え、先生方とも、気軽に話しかけたり、相談してもらえる等、信頼関係は築けてきていると感じる。	
非 常 時 等 の 対 応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援センターでの避難訓練を実施 マニュアルは作成しているが、感染症の訓練など細かい訓練ができていない。 	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1		十分とは言えないため、小さなことでも記録、共有し、大きな事故に至る前に防止できるようにしていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	2	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束が必要なお子さんが現状いない。 現状として拘束が必要な利用者はいない。必要になった際には、十分にインフォームドコンセントした上で、支援計画にも記載している。 	